

第4回学校規模適正化・適正配置推進計画策定委員会(会議録)

- 1 日 時 令和7年2月26日(水)、18時30分～19時58分
- 2 開催場所 中妻地区生活応援センター 大集会室
- 3 出席委員 山蔭深思委員、小笠原慎二委員、内川留依委員、上小路悠子委員、小笠原英美委員、福成菜穂子委員、檜山知美委員、柴田渥委員、洞口政伸委員、佐々木啓二委員、常陸奈緒子委員、鈴木崇委員、藤井智哉委員（13人）
- 4 欠席委員 市村かおり委員、佐々木猛委員、市川淳子委員、長谷川利香委員、遠藤一彦委員、合田育美委員（6人）
- 5 事務局 高橋勝教育長、藤井充彦教育部長、笹村聡一総務課長、佐々木薫学校規模適正化推進室課長、浅野純一学校教育課長、佐々木憲一郎総務課長補佐、前川恵美総務課長補佐、谷藤太郎学校規模適正化推進室長補佐

6 経 過

(1)開会

藤井教育部長が開会を宣言

(2)教育長あいさつ

【高橋教育長】

今回は、皆様に聞いたかった意見等が十分に聞けなかった部分もあったので、本日はそのことも踏まえながら進めさせていただきたい。

前回のこの会議が終わってから、教育委員会として中学生への説明を行い、中学生がどのような意見を持っているのかを聴取した。本日はそれについても資料としてお示しているのですが、会議の中で十分に説明できない部分もあると思うが、このあと目を通して中学生がどのような考えを持っているのかということも今後の参考にさせていただきたい。

また、PTAとも意見交換等を行っている。早く進めてほしいという意見もあれば、もっと慎重に考えたほうがいいという意見、様々なものがあるので、そういった部分も踏まえながら本日は説明させていただきたいと思う。

(3)協議等(以下、委員長が議事進行)

【委員長】

今回で第4回目の委員会となる。今回は推進計画の構成案や、小中学校の統合の方向性などについての協議を行った。推進計画の構成については事務局にお任せするという事で合意があった。

本日は、小学校、中学校それぞれの統合の検討状況について、PTAとの意見交換を

実施した内容などを踏まえて、皆様にお示ししたい。それに対する皆さんからの忌憚のないご意見を頂戴したい。

それでは、次第の3、「説明・協議」に移りたいと思う。

(1)の「基本方針について」、事務局から説明をお願いしたい。

①基本方針について

- ・ 資料1に基づき、事務局から説明

【委員長】

事務局から基本方針について説明があった。

この基本方針を具現化し、学校規模の適正化・適正配置を推進するための計画策定に向けて検討していくことが当委員会の役割となる。その具現化のため、皆さんのご意見を伺いたい。基本方針を皆さんと共有していきたい。

何か確認したいことや質問があったらお願いしたい。

【委員】

基本方針(4)「基本方針と方策」の2のところだが、中学校のところで「8学級以下となってもやむを得ないもの」とします。この場合、小中一貫教育の導入についても検討します。」というのは、小中一貫教育で9学級以上という基準があるのか。

【事務局】

小中一貫教育で9学級以上という基準ではない。中学校だけで9学級あることが望ましい。そうすることによって教科担任の先生の配置が充足されるというのがあり、そこが大きなメリットと思っている。

【委員長】

その他に何か。

【各委員】

(なし)

【委員長】

それでは次の協議に入りたいと思う。

(2)の「小学校統合の検討状況について」、事務局から説明をお願いしたい。

②小学校統合の検討状況について

- ・ 資料2、資料4-1～4-3、資料5-1に基づき、事務局から説明

【委員長】

ここは、各小学校について皆さんから意見をいただきながら進めたいと思う。

それでは、最初に栗林小学校の統合の方向性について、こうしたほうが良い、こういった点に留意すべきなど、何か意見があればお願いしたい。

【委員】

ここに示されている保護者の意見がもっともだと思うのだが、地域の方にはどの程度説明しているのかを伺いたい。というのは、栗林児童館の保護者から栗林小は令和9年に統合してそのタイミングで学童もなくなるということを聞いてすごく不安だという話をされた。こちらとすれば、何年度統合という話も学童がそれに合わせて閉所という話も聞いていないので、それが全くの誤解なのか、それともそのような話がそこで出たのか伺いたい。

【事務局】

恐らくそれはPTAの皆さんの意見を伺った時のやりとりの中での話だと思う。

令和9年度に統合したほうがいいのか、という話にはなったのだが、そういう方向性になるけれどもまだクリアしていかなければならないことはあり、学童については、基本的に栗林小の子は鶉住居小に行くことを想定しているので、鶉住居小の学童を使ってもらいたいという話はした。そうすると自然と栗林小の学童は廃止という方向になると思うが、栗林小の学童は児童館も併設されており、そちらがどうなるかは検討事項であるという話で終わっていたと思う。

また、その流れで長期休業中の学童の在り方についても保護者の方から話があり、仮に鶉住居小の学童に長期休業中に通うとなると大変だという声もあったところ。それについては検討させてくださいと話してある。

【委員】

要望として、今話があった学童については鶉住居小にもあるのでこれはやむを得ないと思うが、統合後の子どもたちのケアを図るうえで、栗林については統合後数年の間は児童館としてはぜひ残していただけるとありがたい。1年生から鶉住居小に行っている子たちはまだよいが、途中から大きな学校に行くとストレスを抱える子どもも想像できるし、やはり地域の拠点として地域と関わる場所がどうしてもほしいのではないかと思う。そういう意味で児童館として残していただければありがたいと思う。

児童館と学童は違って、学童だと親御さんが就労しているお子さんしか預かれないということになるが、児童館だと例えば不登校や申込みしていないお子さんもいつでも自由に来れる状況になるので、教育委員会の管轄とは違うかもしれないが、要望として児童館を視点に入れていただければありがたい。

【事務局】

学童も児童館も市のこども家庭課というところが管轄になる。連携しながら一緒に検討していきたいと思う。

【委員長】

親御さんたちの不安を取り除くためには、必要な居場所づくりはこれからも協議して
いかなければならないことだと思う。

その他に何か。

【各委員】

(なし)

【委員長】

保護者の理解も得つつも、まだ決定ではないが令和9年度の統合に向けて考えてい
るという線で地域の方と話し合いをしている。これで進めてよろしいか。

【委員】

9年度となると統合までに2年しかない。準備期間は十分なのかというところが疑問
に思った。

【事務局】

準備期間とすると非常にタイトだと思っている。いろいろな先生方に伺っても2年か
ら3年は必要だという声はよく聞く。ただ実態を見た時に、ここで統合せざるを得ない
というのであればそれに向けて準備を進めていく。この計画が出来上がる前からでも、
もし出来るのであれば内々に協議を進めていくこともできるかなと考えている。

【委員長】

より良い環境で進めることを協議していただきたいと思う。

それでは栗林小については基本方針に沿って進めることとします。2つ目の白山小に
ついて何かありますか。

【各委員】

(なし)

【委員長】

白山小の統合については、今後、釜石小の検討状況を踏まえて保護者との確認・相談
をしながら統合に向けて進めていくという方向性でよろしいか。

【各委員】

(異議なし)

【委員長】

3つ目、唐丹小の統合の方向性について、皆様いかがか。意見があれば発言をお願い
したい。

【委員】

「基本方針と方策」のところだが、1から5まで項目があるが、これは上にあるものが優先という捉え方でよろしいか。

【事務局】

その通り。

【委員】

感じ方の問題になるが、いろんな学校が何年度という形で期間を示しているので、統合は行わないとか統合は検討するという表現ではなく、令和何年以降に検討するというふうな、検討していますということだけでも出していただかないと、何か特別感みたいなものを感じてしまうので、期間的なものを入れてもらえれば。中学校のほうには12年度、13年度みたいな形で出ているので、その時期に検討するみたいな形で期間を入れていただければ、各校、期間によって判断していることが分かるのかなと思う。

【事務局】

ご意見として承り、参考とさせていただく。

【委員長】

唐丹小統合の方向性について、他には。

【各委員】

(なし)

【委員長】

意見をいただいたが、基本方針に沿って唐丹小はしばらく統合を行わないという方向で進めるということでご理解いただいでよろしいか。

【各委員】

(異議なし)

【委員長】

続いて、「複式学級が見込まれる学校の方向性」だが、釜石小の統合の方向性について、委員の皆様から何か意見は。

人数の推移とか、これからもますます検討する必要があると報告を受けたが、意見があればお願いしたい。

【各委員】

(なし)

【高橋教育長】

先ほど説明があったのは釜石小と双葉小を統合した場合の考えだが、そのあとも自
度数は減っていくので、小佐野小との兼ね合いが出てくるのが想定される。その辺に
についても皆さんから意見があれば承りたい。

【委員長】

今教育長から話があったが、いずれにしろどこの学校も統合に向けての協議を進め
なければならないくらいの人数となる。地域やいろんな面を含めて、示されている資料
にあることだけではなく、これからもっと進めていかなければいけないという意識を共
有したい。

【委員長】

それでは「中学校統合の検討状況について」、説明をお願いしたい。

③中学校統合の検討状況について

- ・ 資料3、資料4-2～4-3、資料5-2を基に事務局から説明

【委員】

唐丹中の統合時期についてだが、複式の授業をしたことがある教員がほとんどいな
い。小学校はそれなりにあると思うが、中学校は基本的には学年ごとに違うので、多分
ほぼ経験者がいないので、ノウハウもないということでもかなり難しいのではないか。

【委員長】

先週2月20日に、事務局が唐丹小中PTAの役員と懇談したところ、統合先は釜石中
で、統合時期は大平中、甲子中の統合を考えている時期に合わせて、唐丹中も1回で統
合するべきではないかという意見があったということが先ほど事務局から報告された。

ただし、唐丹中は令和12、13年度に複式学級が見込まれている。先生方の経験の無
さとか、中学校の複式学級のメリット、デメリット等を勘案しながら、再度協議してい
くということによろしいか。

【委員】

基本的なことが詳しくないので教えていただきたい。複式学級というのは、必ず人数
が基準を下回ったら複式学級にしなければいけない決まりがあるのか。人数が少なく
ても3クラス、学年ごとに1クラスということは不可能なのか。

【事務局】

人数が少なくなれば複式学級ということになり、基本的には先生は複式になった学級
に一人という配置になる。もし、先生の数が多くなった場合は、複式学級を解消して指
導することはできるが、先生の配置に大きな課題があり、必ず配置できるものではない
ということがある。

【委員】

前日も出たが、4校統合して1校だけ残す案だが、その4校の中でなぜ釜石東中だけ残るのか。学区を見ると、甲子中を残して3つ、海沿いを固めても甲子のほうが多い。あと、小中一貫教育にするなら1校だけではなく、逆に甲子中と釜石東中の2校を小中一貫体制にして、釜石中はそれなりに人数があるので、釜石中と大平中と唐丹中と一緒に残る案もあるのだろうけれども。

小中一貫教育については前からメリット・デメリットの話があった。小中一貫の話はまだ理解していないのだけれども、釜石東中のほうが甲子中よりも人数が少ないのに、そこを残して大きい学校同士を集めると、かなり問題があるという話になったときに、釜石東中だけを残してどうなのかなという話もある。まだかなり先なのでこれから議論をするのだろうが、教育委員会としていろんな案を作っていくとたたき台にもならない。

案に対して私は何も言わないし、今回、すごく分かりやすい人数の資料を出してもらったし、先ほど栗林小の話にも出たが、保護者が「一人で入学させたくないの9年度に統合させてくれないか」という話を私も聞いた。保護者や地域の声もいろいろあると思うので、中学校だけはなぜこの案になったのか、もう少し説明がほしいような気がした。たたき台でも構わないので、そういう話がないと進まないの、よろしく願いたい。別に変な意味ではなく、なんでこうなったのかだけを。なんとなく学区でいけば、唐丹のほうから釜石中に行くのと地図を見ているとそんなに変わらないような気がする。

【事務局】

いろいろ数字を推計していく中で、唐丹中、大平中、釜石中でまとめた案も考えた。そうすると9学級の確保を見込めない状態になってくる。市内で9学級ある学校が1校もなくなってしまうというところが一つ、あともう一つは甲子中の校舎が大規模改修の時期を迎えるところも考慮すべき材料になっていた。

【高橋教育長】

補足になるが、校舎自体は釜石東中が一番新しいということも一つの理由。それから二つ目は、小中一貫教育の話が出たが、小中一貫教育のメリットを考えたときに校舎一体型のほうがやりやすいということが大きい。釜石東中が小中一貫教育を進める中では校舎一体型なので一番やりやすいことが大きな理由。校舎が別々だと、教員や児童生徒の移動等の部分でのロスも大きい。そういうところを考えた時に校舎一体で行き来しやすいとか活動もしやすいのだろうなというところ。

そういったところを勘案しながら、片方はある程度の大きな規模でやっていく、もう片方は小さいが特色を出すということと、釜石東中の人数の少ないメリットを生かすことを考えるとしたら、小中一貫教育を進める中でメリットを最大限に発揮できるような教育をしていくことが、両方が存在する意義として大きいだろうと考えている。それが釜石東中を残す大きな理由となっている。

【委員】

大規模改修などお金の話をされると何も言えないが、なんとなく見ていると、児童生徒数は推定値ということだが、釜石東中もこの数字でいくのか疑問がある。7年と20年ではそんなに人数が変わっていない。他の学校は減っている。釜石東中もこの数字でいけばいいと思うが、もし減っていったら大変だという話。途中から推定値と言っていたが、釜石東中の人数は変わらないで、例えば釜石中は半分以下に減っている。釜石東中がこのような数字で残ってもらえれば私たちも助かるのだが、他の学校に比べると人数が減っていないという話になる。推定値なのでそこに対してとやかく言わないが、これから何年かあるのでこのようなたたき台をつくっていただいてありがたいので、あとは子どもたちと話をしてもうちょっとここは詰めてもらいたい。

ただ、子どもたちと話す時に、先ほど言った小中1校になればいいという話も分かるけれども、栗林小は大規模改修が2、3年前に終わったばかりで、終わって1年か2年で統合の話が出ている。栗林児童館も2、3年前に建て直したばかり。小学校も去年か一昨年に校庭も含めて大規模改修が終わったばかり。そういうのはちょっと厳しいかなと思って言わせていただいた。ただ、すごく分かりやすい資料なのでこれを参考にして、また皆で議論していけばいいのかなと思う。

【委員長】

意見として承る。

これから統合の方向性が定まって、地域やPTAの合意形成がなされた学校から統合に向けた準備を進めていくことになると思う。事務局においては、引き続きPTA等との丁寧な協議等を進めていただきたい。地域の方々の理解があつての進行だと思っている。引き続きよろしくお願ひしたい。

【委員】

確認を踏まえて。中学校4校が統合するということで、令和14年度にキャパ的に入るというのは、生徒数を全部踏まえてということによろしいか。

【事務局】

その通り。

4校を統合した場合の学級数が12学級になると見込んでいる。釜石中学校の普通教室が15学級あるので、12教室プラス特別支援の教室、教育支援的なもので使う教室を確保しても12学級であれば入れるだろうというところで令和14年度と想定している。

【委員】

それは分かったが、釜石中ができたときはもうちょっと人数がいたと思う。それなのになぜ14年まで入れないというのが、キャパなのか生徒数なのかよく分からないなという所が疑問。今から令和14年度になると、まだ7年もあるので、子どもにとっての7年は大きい年月にもなるし、私は早いに越したことはないと思っており、このキャパがどうこうと言うのは納得いかない部分があるので、そこを踏まえて今後の資料等の検討

材料にしていいただければと思う。

【事務局】

人数については、今現在の推定値でありこの通りいくとは思っておらず、変化はしてくると思う。タイミングを見て見直しももちろん必要になってくると思っている。

ご意見ありがとうございます。

【委員長】

その他、ありませんか。

【委員】

一点確認だが、4校くっついて9学級の中学校と、もう1校だけになったときに、教員の確保について、専門分野の先生がいない問題があるとよく聞かすが、そうなった時に9学級と人数が少ない各学年1学級の学校に同じぐらいの先生が確保できるのかどうか。教育格差が生まれてしまうと意味がない。

あと、仮に小学校の教諭の方で中学校の免許を持っている方もいるかと思うので、そういう方を活用して人数に充てるという考えを持っているのか確認したい。

【事務局】

中学校の9クラスという部分が基本になっているのが、中学校での国語から5教科プラス体育や音楽などの技能教科を含めて、すべての専門の先生を配置できる基準。9クラスよりも少なくなると、例えば国語の先生が臨時的免許を取って数学を教えたり、2教科を教えたりする可能性も出てきたり、そういった対応をする形になる。

9クラスよりも少ないクラスの中学校は、今、教育委員会で小中一貫も含めて考えていく中で、小学校の先生で中学校免許を持っている先生もいるので、中学校に乗り入れて教科の補充をしたり、逆に小学校のほうに中学校の先生が関わっていく中で、子どもたちの学習を充実させるというような方向性も含めて検討して、なんとか子どもたちの学習の充実に結び付けるような方向で学校統合等を考えていければと思っている。

【委員】

先生の数が少ないことにより、子どもたちに不利益があれば良くないと思ったので確認したところ。

中学校が2校になったときに、部活動によって学校を選ぶ親御さんや子どもたちもいるので、今部活動の地域移行が進められていると思うが、その辺も踏まえて部活動を考慮しないような形をとっていただかないと、人数が多い学校のほうが強いといって人数が少ない学校からそっち行くなどすれば、部活動の人数が足りないという形になる。その辺も合わせてやっていただければ、特に2校になっても問題はないのかなという思いがある。

【高橋教育長】

部活動の地域移行との関わりもあるのではないかなと思っている。国では平日の部活動も今後すべて地域移行という方向性で進めることになっている。ただ、それぞれの地域によって実情があるので、すぐにできるところと時間がかかるところがあるのではないかなと思うが、方向性としてはそうなっていくのではないかなと思う。統合を迎える時期にどういう状況になるか予想がつかないところがあるが、考えながら進めたい。

【委員長】

中学校統合の検討状況について、ここまでの内容を確認したいと思う。

中学校は、令和14年度以降に釜石東中以外の4校を統合し、釜石中の校舎を使用する方向性で進めることとする。現時点でのことなので理解しながら聞いていただきたい。

唐丹中は、令和12年度に複式学級が生じることが推測されているが、その他の中学校の統合時期を合わせて統合するのか、それとも複式学級が生じる前に、先んじて統合するのかは再度協議していくこととする。最終的には釜石中と釜石東中の2校体制とする。

現時点ではこのような方向性として理解いただきたい。よろしいか。

【各委員】

(異議なし)

【委員長】

私は意見を言える立場ではないが、9年制の学校の協議・検討もこれからで、先生方も研究しているような中、人数の多い中学校、少ない中学校の2校を提案している。格差について、それからクラブ活動についてもご意見があった。9年制で学んだことが、もしかしたら子どもたちに、ものすごくいい経験になるかもしれない。始めてみないと何も見えていない段階で、人数が多い中学校、少ない中学校でということは、方向性として2校でいくという教育委員会の考え方で進めているので、お互いの良い部分、だめな部分を譲り合って、子どもたちにどの環境が一番良いのかということを中心に考えながらこれからもどんどん協議してほしいと思う。皆さんから意見は。

【各委員】

(なし)

【委員長】

なければ次に進めさせていただく。

(4)の「釜石市学校規模適正化・適正配置推進計画(素案)について」説明願う。

④釜石市学校規模適正化・適正配置推進計画(素案)について

- ・ 資料6に基づき、事務局から説明

【委員長】

推進計画の素案について説明があったが、今後、当委員会で検討した結果を踏まえて、具体的な学校統合計画などの肉付けを行っていくこととなる。

本日は、配布した推進計画の素案を持ち帰りいただき、次回の委員会で意見を伺いたいと思う。

素案についてはよろしいか。

【各委員】

(なし)

【委員長】

それでは、持ち帰って検討願う。

⑤その他 こどもの意見聴取結果について

- ・ 資料7について、事務局から説明

【委員長】

皆さんの手元にある「資料7」は、教育委員会との意見交換の時に、中学生がいつも思っている意見を、素直に、本当に一生懸命考えてくれていることがここに記述してある。今日は皆さん持ち帰りいただき、目を通していただきたい。

その他、意見は。

【委員】

資料の7で、中学生たちから意見をもらったということで説明頂いたが、小中学校の統合の検討状況についても関わってくるところかなと思うが、現場の先生方には意見交換やアンケートなどで声を聞くことは予定しているか伺いたい。

【事務局】

校長先生方からは意見を伺っているが、現場に出ている学級担任を持っている先生方との意見交換は今のところはしていない。今後も、今のところは予定はない。

【委員】

教育委員会の皆さんも先生方も忙しい中での検討で限界があるとは思いますが、先ほど他の委員からも話があったように、複式学級の経験の有無の部分であったりとか、もちろん校長先生、副校長先生が把握されている部分もたくさんあると思うが、やはり基本計画にあるように「子どもたちの生きる力を育む」というところで、生徒の目の前に立つ先生方がどのように考えているのか、どこに不安を感じているかということを知りたいので進めると、なんとなく現場感から離れている計画になっているのではないかなという気がしているので、すべての先生方に細かいことを聞くことは難しいかと思うが、ある程度何かしらの形で現場の声を吸い上げるといような形をとっていただけるといいのかなと思う。

【委員長】

今後、協議していただきたいと思う。

【委員】

資料7についての条件だが、全部釜石中と統合したらと仮定したアンケートか。そこだけ教えてほしい。書いてあるところと書いてないところがあるので、例えば、「釜石東中も唐丹中と統合したら」という形で聞いたのか、甲子中は何も書いてなかったのか、条件は皆同じでアンケートをしたのかだけ教えてほしい。

【事務局】

甲子中も、釜石中と統合したらということで話を聞いている。アンケートの形がちょっと違ってしまったのでこういった回答になっている。

【委員】

全部の学校がそうか。

【事務局】

全部の学校である。

【委員】

大平中から釜石東中までか。

【事務局】

自分が通う中学校が他の中学校と統合したら、ということを考えてもらうために、仮定として、釜石中ということで聞いている。

【委員】

今回会議に参加して、資料を確認して私が個人的に感じたのは、基本理念をしっかりつくられていて、「強く生き抜く力」というスローガンもつくられているが、全体的に内容が数字ばかりで、どことどこが一緒になればこのくらいで、距離がどのくらいとか、子どもたちに対するものが全然感じられない。統合するからこそ、こういうメリットや教育ができるとか意見をいただいた上でこの数字を出されると納得できるのかもしれないけれど、複式学級のメリットなどの内容を盛り込んで説明してもらえれば皆さん理解するのではないかと思う。

通学時間が1時間以内、45分以内とか数字ばかりを見てしまって、根本的な統合することのメリット・デメリットが議論になっていないのではないかなと思うので、それを踏まえた上での協議・検討をしていったほうが私たちも理解できるし、先ほどあった「資料7」の子どもたちの意見も盛り込んでいけば、濃い内容のいい議論ができるのではないかと感じたので、お伝えさせていただく。

【事務局】

今日、お示した資料が基本方針の抜粋になっている。基本方針の本体をご覧いただけるともっと詳しく「子どもたちにこういう社会性を育みたい」とか、もう少し具体的な文言が出てくる。1回目の会議の時にお渡しした資料の中に入っているのも、そちらも参考までにご覧いただければと思う。資料を出す場合も、今後そういうところも合わせて出せるようにしていきたいと思う。

【委員】

学童のことを伺いたい。学童及び児童館のこと。今後これを進めるにあたって、こども家庭課との協議も庁内でしていると思うが、どういう方向で捉えているのか分かればお伺いしたい。

【事務局】

こども家庭課とも情報共有をして、そちらのほうでも今後学校統合と併せてどうしていったらいいのかを自分たちも考えていくということにはなっている。ただ、具体的な方向性というところまではできていない。

【委員】

これからということでしょうか。

【事務局】

そのとおり。

【委員長】

今、具体的には示せないという説明があったが、絶対必要な、これから大事なことだと思う。これから協議の中で、先ほど意見があったように数字で示すのは最低限の基準の話で、今示された数字をここに肉付けしていくところに、皆さんから意見をいただきながら基本方針を固めていく会でありたいと思う。皆さんの意見をこれからも頂戴したいと思う。

次回、今日持ち帰っていただく資料等に肉付けができるような、いい方向に進めるような意見を頂戴したいと思う。

【委員】

人数減によるやむを得ない統合であっても、後ろ向きの統合ではなくて、子どもたちが統合するメリットを感じながら希望を持って通える学校統合にしてほしい。そのためには、学校でどのような教育を提供するか、今まで以上に教育の質の向上を図ってほしいし、そのための教育環境の整備も併せて行ってもらえればありがたい。統合することを逆にチャンスと捉えて、何か思い切った改革ができるのであればここがチャンスかなと思うところもある。

この場で話すことではないかもしれないが、勝手なことを言うと、中学校の統合に先んじてクラブ活動を先に皆でやろうとか、学校の枠を超えて一緒に活動することによって、関わりが生まれて統合したあともスムーズに学校が運営できるのではないかなと思う。子どもの輸送とか活動場所とか指導者の問題等、様々なハードルがあると思うが、そういうことも考えていただければありがたい。

もっと勝手なことを言うと、小学校の連合行事等も考える必要があるかなと思う。これだけ人数に差がある中で開催して、学校数が減少して、果たして開催する意味があるのか。例えば陸上記録会は、毎年お金をかけて遠野まで行って開催することを思えば市内で集まるなど検討する必要があるのではないかなと思う。陸上は通信陸上とか県内の大会もあるし、釜石市がラグビーの街を掲げているのであれば、陸上ではなくてラグビーをするのも一つの案かなと。せっかく立派な鶴住居スタジアムがあるので3年生は集まってそこで交流するような、学校の枠を取り払った体験をするとか、5、6年生はチームを組んで1回はラグビーボールに触れてラグビーをするとか、そういうのも踏まえると釜石市のラグビーというのも一本通るのかな。これは学校レベルの話になるかもしれないが、統合を機に何か改革を進めて、質の向上とか教育環境の質を高めてもらえればいいのではないかなと思う。要望・意見です。

【委員長】

チャンスという言葉が出ました。違う考え方がぶつかり合って、子どもたちにとっていいチャンスが表れれば。釜石市の子どもたちに未来を託したいと思っている。

皆さん、ご意見はよろしいか。進めてもよろしいか。

【各委員】

(なし)

【委員長】

それでは、これで本日予定していた協議は終了させていただく。

根底には子どもたちのためにということが基本なので、その方向に皆で、釜石市民がこういう統合でよかったと思える結果を思い描きながら今日は閉じたいと思う。

協力ありがとうございました。

連絡事項があればお願いしたい。

【事務局】

次回の委員会は4月に開催予定としている。日程が決まり次第皆様に連絡する。

【委員長】

教育長からお願いします。

【高橋教育長】

私からは御礼申し上げます。

様々な貴重なご意見をいただいたので、それらを検討材料にさせていただく。意見を全部そのまま通せない部分もあるかと思うが、参考に検討させていただきたい。

なお、今回は大学の先生から小中一貫教育について全体的なことをお話していただいたが、次回は、今後小中一貫教育を進める中で、小中一貫教育というものがどんなものかの理解がまだ不足している部分があるのではないかなと思うので、改めて小中一貫教育の具体的な部分について、説明して理解していただければいいかなと思っている。

また、最後に委員から話があったが、なんとなく統合というと、地域から学校がなくなってしまうということで後ろ向きに捉えがちだが、そうではなく、プラスだということでやらなければならないと皆さんの意見が大体一致しているので、前向きにどうしたら良くなるのか、プラス思考で地域の方々や保護者の方々と話ができればいいのではないかな、それができれば何か新しい考えとかが浮かんで、それがプラスにもなってくるのではないかなと思う。

教育委員会自体でも、学校統合は難しい面もあるので後ろ向きになってしまうところもあるのかなと思うが、教育委員会も前向きにやっていきたい。今後皆様のご協力をお願いしたい。

7 閉会

(教育部長あいさつ)

以上